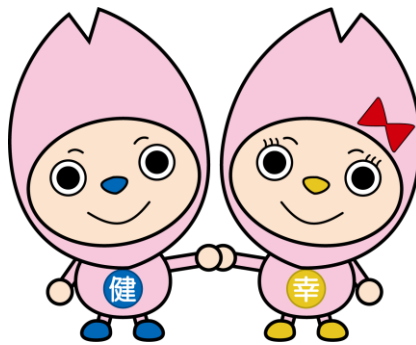


予防接種のしおり

令和8年4月



【予防接種予診票】

定期予防接種の予診票は種類により使用する用紙が決まっています。() 配布枚数

- ★小児用肺炎球菌ワクチン (4枚) ・ ・ 薄青色
- ★B型肝炎ワクチン (3枚) ・ ・ グレー色
- ★ロタウイルスワクチン (3枚) ・ ・ 白色
- ★BCGワクチン (1枚) ・ ・ 薄空色
- ★5種混合ワクチン (4枚) ・ ・ 薄オレンジ
- ★水痘ワクチン (2枚) ・ ・ サーモンピンク
- ★麻疹風疹混合 (1期) (1枚) ・ ・ ベージュ

◎日本脳炎ワクチンの予診票は3歳児健診時と小学4年生にご案内しています。

◎麻疹風疹混合 (2期) の予診票は年長の時期にご案内しています。

◎2種混合ワクチンの予診票は小学6年生にご案内しています。

◎HPVワクチンの予診票は小学6年生 (女子のみ) にご案内しています。

★接種開始時期が遅れた等で、お手元に不要な予診票が残った場合は過剰接種を防ぐため、破棄するか森町保健センターに返却してください。

★定期予防接種を受ける際は、原則保護者 (父母) 同伴となります。何らかの理由で保護者が同伴できず、お子様の健康状態をよく知っている親族 (祖父母) などが同伴する場合、予診票裏面の委任状をご記入ください。

★森町外に転出 (住所変更) された場合、森町の予診票は使用できません。

令和8年4月発行

発行 森町保健福祉子育て課健康増進係 (森町保健センター)

〒049-2313 茅部郡森町字森川町278番地2

電話番号 01374-3-2311

— もくじ —

1	予防接種とは	1
2	予防接種を受けましょう	1
3	定期予防接種一覧	2
4	予防接種の受け方	3
5	接種前の注意	3
6	予防接種が受けられない人	3
7	予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人	3
8	予防接種を受けた後の注意	4
9	病気にかかった場合、次の予防接種を受けるまでの間隔	4
10	健康被害救済制度について	4
11	予防接種の対象となる感染症・接種回数と受け方・接種後の注意等	5
	5種混合ワクチン・4種混合ワクチン（不活化ポリオ）・2種混合ワクチン	5
	小児用肺炎球菌ワクチン	7
	B型肝炎ワクチン	8
	ロタウイルスワクチン	9
	BCGワクチン	10
	麻しん・風しん（MR）ワクチン	11
	水痘ワクチン	12
	日本脳炎ワクチン	13
	HPV（子宮頸がん）ワクチン	14
12	主な任意の予防接種	15
13	各種予防接種の間隔	15
14	接種間隔の考え方の例	16
15	長期療養者の定期予防接種機会の確保について	16
16	予防接種実施医療機関	17

★ 受ける前のチェックポイント ★

- ① お子さんの体調はふだんと変わりありませんか？
- ② 受ける予防接種の接種間隔や接種時期に間違いはありませんか？
- ③ 受ける予防接種の効果や、副反応などを理解できましたか？
- ④ 予診票の記入は済ませましたか？
- ⑤ 脱ぎ着させやすい服装ですか？
- ⑥ 母子健康手帳、予診票のほか、マイナ保険証または資格確認証、子ども医療費受給者証、医療機関の診察券、おくすり手帳、財布、おむつ、飲み物などのお出かけセットは準備してありますか？



お子様の予防接種について 大切なしおりです



予防接種を受ける前に、この「予防接種のしおり」を必ずお読みいただき、内容をよくご理解いただいたうえで、接種を受けてください。

1 予防接種とは

感染症の原因となるウイルスや細菌、または菌が作り出す毒素の力を弱めてワクチンを作り、これを接種して病気に対する抵抗力（免疫）をつくることを予防接種といいます。

★感染症とは

ウイルスや細菌などの微生物が体内に入り、体内で増加することで発症する病気の事です。微生物の種類によって、発熱や咳、頭痛をはじめとするさまざまな症状が出現します。

2 予防接種を受けましょう

お母さんから子どもにプレゼントされた抵抗力（免疫）は、生後12か月までにほとんどが失われて行きます。そのため、この時期を過ぎると赤ちゃん自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

予防接種はその効果と**副反応**をよく理解してから受けましょう。

また、接種時期や受ける回数、間隔などが定められていますので、かかりつけ医と相談しながら進めていきましょう。

★副反応とは

予防接種を受けると、免疫ができるという効果以外に、アレルギー反応などの症状が現れる場合があります。それらを総称して「副反応」といいます。

予防接種を受けたあと、心配な症状が出た場合には、早めに接種した医師か、かかりつけ医にご相談ください。

副反応については、接種ワクチンごとの説明ページをご覧ください。

3 定期予防接種一覧

予防接種の種類	接種対象 年(月) 齢	接種回数他	接種方法
5種混合ワクチン 〔ジフテリア、百日せき、破傷風、不活化ポリオ、ヒブ〕	2ヶ月～90ヶ月(7歳半)未満	初回 3回 追加 1回 ※ 詳しくはP5～6	町内医療機関、 渡島管内(北斗市、七飯町)、 函館市内の小児科 医院等に直接予約 して接種してくだ さい。 ※2種混合ワクチン 及び HPV ワクチン は函館市内の小児 科医院等では接種 できません。 町内医療機関 または 渡島管内(北斗市、七飯町)の小児科 医院等に直接予約 してください。 連絡先はP17
2種混合ワクチン 〔ジフテリア 破傷風〕	11歳～13歳	1回 詳しくはP5～6	
小児肺炎球菌 ワクチン	2ヶ月～5歳未満	初回 3回 追加 1回 ※ 詳しくP7 ※ 接種開始時期により 接種回数が異なります	
B型肝炎	2ヶ月～12ヶ月未満	3回 ※ 詳しくはP8	
ロタウイルス ワクチン	★ロタリックスの場合 生後6週～24週まで	2回 ※ 詳しくはP9	
	★ロタテックの場合 生後6週～32週まで	3回 ※ 詳しくはP9	
BCG	★ロタテックの場合 生後6週～32週まで	1回 ※ 詳しくはP10	
麻しん・風しん 混合(MR)	1期；1歳～2歳未満	1回 ※ 詳しくはP11	
	2期；5歳～7歳未満 (小学校就学前の3月31日まで)	1回 ※ 詳しくはP11	
水痘	12ヶ月～36ヶ月(3歳) に至るまでの間	2回 ※ 詳しくはP12	
日本脳炎	6ヶ月～90ヶ月(7歳半)未満	1期初回 2回 1期追加 1回 2期 1回 ※ 詳しくはP13	
HPV ワクチン (子宮頸がんワクチン)	12歳となる日の属する年度の 初日から16歳となる日の属す る年度の末日までの間にある女子	12歳以上15歳未満： 2回 (※15歳未満までに1回 目接種を行えば2回での 接種完了が可能) 15歳以上：3回 ※ 詳しくはP14	



※接種対象年(月) 齢を外れて接種した場合、任意接種となり自己負担(有料)になりますのでご注意ください。

4 予防接種の受け方

- ① 個別接種は、医療機関にあらかじめ電話等で予約をしてください。(P17 参照)
※接種のスケジュールは、保護者ご自身がこのしおりをよく読み、接種時期や接種間隔を確認したうえで、かかりつけ医に相談しながら決定してください。
- ② お手元の予防接種予診票と、母子健康手帳を持参してください。
- ③ お子さんの健康状態により、当日接種できないこともありますので、念のためマイナ保険証または資格確認証と子ども医療費受給者証（お持ちの場合）をご持参ください。
- ④ 予診票は、自宅で記入してお持ちください。
- ⑤ 当日の朝、自宅で体温を測ってください。(37.5℃以上は接種できません)
- ⑥ 再度、接種会場で体温測定します。(37.5℃以上は接種できません)
- ⑦ 予診後、予診票に保護者のサインをお願いします。

5 接種前の注意

- ① 当日はお子さんの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認してください。接種を予定していても体調が悪く思ったら医師に相談のうえ、接種するかどうかが判断しましょう。
- ② 受ける予定の予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。
- ③ 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。
- ④ 予診票は健康状態など必要事項を記入し、必ず持参してください。
- ⑤ お子さんの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方がお連れください。

6 予防接種が受けられない人

- ① 明らかに発熱(37.5℃以上)している人
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分によって、アナフィラキシー(呼吸困難・全身のじんましん・嘔吐・顔が急に腫れる・ショック状態等の強いアレルギー反応)を起こしたことがある人
- ④ 結核の予防接種(BCG)は、BCG等の予防接種、外傷等によるケロイドがある人
- ⑤ B型肝炎は母子感染予防として、出生後にB型肝炎ワクチンの接種を受けた人
- ⑥ ロタウイルスワクチンは、腸重積症の既往のある人、先天性消化管障害のある人(その治療が完了した人を除く)、重症複合型免疫不全のある人
- ⑦ その他、医師に予防接種を受けることが不相当と判断された人

7 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する人
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人
- ③ 過去にけいれんの既往のある人
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人
- ⑥ 結核の予防接種(BCG)は、過去に結核患者との長期の接触がある人その他の結核感染の疑いのある人
- ⑦ ロタウイルス感染症の予防接種は、活動性胃腸疾患や下痢等の胃腸障害のある人

8 予防接種を受けた後の注意

- ① 予防接種を受けた後**30分間**は、接種会場でお子さんの様子を観察しましょう。やむを得ず接種会場を離れるときは医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- ② 接種後、生ワクチンは4週間、不活化ワクチンは1週間、副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこするのはやめましょう。
- ④ 接種当日は、激しい運動はさげましょう。
- ⑤ 高熱やけいれん等異常な症状が出た場合、速やかに医師の診察を受けてください。その場合は、森町保健センター（01374-3-2311）にもご連絡ください。

9 病気にかかった場合、次の予防接種を受けるまでの間隔

麻疹、風疹、水ぼうそう、おたふくかぜ、突発性発疹、インフルエンザ等にかかった場合には、免疫状態の回復を考え、一定の間隔をあけて接種する必要があります。

あける間隔は、かかった病気によって違います。いずれの場合も全身状態の改善を待ち、お子さんの状態により接種するかどうか判断しますので、主治医にご相談ください。

主な感染症	治ってから予防接種を受けるまでの間隔
麻疹（はしか）、ヘルペス等	4週間
風疹、水ぼうそう、おたふくかぜ等	2～4週間
突発性発疹、手足口病、インフルエンザ、リンゴ病、溶連菌感染症、乳児嘔吐下痢症等	1～2週間

10 健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じ、国の審査会で認定された場合には、その程度に応じて、予防接種法に基づく救済（医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料）を受けることができます。

定期予防接種による健康被害が生じた場合には、森町保健センター（01374-3-2311）にご相談ください。

また、法に基づかない予防接種（おたふくかぜ等）により健康被害が生じた場合は、医薬品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることになります。

**連絡先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
0120-149-931（フリーダイヤル）**

11 予防接種の対象となる感染症・接種回数と受け方・接種後の注意等

【5種混合ワクチン(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ・ヒブ)】

【2種混合ワクチン(ジフテリア・破傷風)】

～不活化ワクチン

ジフテリアとは

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。現在では患者発生数は少ないですが、ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りは症状が出ない保菌者となり、その人から感染することもあります。症状は、高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。心筋障害や神経麻痺を起こすこともあるため、注意が必要です。

百日せきとは

百日せき菌の飛沫感染で起こります。普通のかぜのような症状で始まり、続いてせきがひどくなり、連続してせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。

熱は通常出ません。乳幼児は咳で呼吸ができず、唇が青くなったりけいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症があります。乳児では死亡することもあります。

破傷風とは

破傷風菌は、土の中の菌が傷口から入ることによって感染します。菌が体内で増えると、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。土の中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

ポリオ(急性灰白髄炎)とは

ポリオウイルスは、口から入って腸やのどで増殖します。増殖したウイルスは便中に排泄され、便を介してヒトからヒトへ感染します。感染しても多くの場合は症状が出ず、終生免疫が得られます。しかし、ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染が広がり、麻痺を起こすことがあります。ポリオウイルスに感染すると100人中5～10人は、かぜ様の症状を呈し、発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれます。また、感染した人の中で、約1,000～2,000人に1人の割合で麻痺を起こします。一部の人には、その麻痺が永久に残ります。麻痺症状が進行し、呼吸困難により死亡することもあります。

ヒブとは

インフルエンザ菌、特にb型は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な感染症を引き起こす乳幼児の病原細菌です。ヒブによる髄膜炎は、年間約400人が発症し、約11%が予後不良(死亡、後遺症等)と推定されています。生後4か月～1歳までの乳児が過半数を占めています。

※5種混合ワクチンが定期接種の対象となり、4種混合ワクチンの製造販売は終了しています。4種混合ワクチンとヒブワクチンで接種を開始した場合、同一種類のワクチンで接種を完了することが原則ですが、4種混合ワクチンの販売終了により同一種類での接種が難しい場合は、ヒブワクチンの接種回数によらず、5種混合ワクチンに切り替えて接種して差し支えありません。

1 接種回数と受け方

◎5種混合ワクチン（1期）

対象年(月)齢	接種回数（計4回）
2か月以上 90か月 (7歳半)未満	<div style="text-align: center;"> <p>初回1回目 ← 20日以上 → 初回2回目 ← 20日以上 → 初回3回目 ← 6か月以上 → 追加</p> <p>(標準：20日～56日) (標準：20日～56日) (標準：6か月～1年半)</p> </div> <p>1期初回 生後2か月に達した時から生後7か月に達するまでを標準的な接種期間として20日以上(標準的には20日～56日まで)間隔をおいて接種。</p> <p>1期追加 初回3回接種終了後、6か月以上(標準的には6か月～1年半)間隔をあけて接種。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">接種量：0.5ml</div> <p>◎4種混合ワクチンで接種を開始し、5種混合ワクチンに切り替えて接種を完了する場合であっても、接種間隔は上記のとおりとなります。</p>

※上に示す標準的な接種間隔を外れても接種できますが、ワクチンの免疫を効果的につけるために、所定の間隔を守ることがとても重要です。

◎2種混合ワクチン（2期）

対象年(月)齢	接種回数（計1回）
11歳以上 13歳未満	<p>1回</p> <p>2期 1期の5種混合ワクチン（4種混合ワクチンを含む）を終了し、基礎免疫が得られたお子さんが対象。</p> <p>※<u>小学校6年生になりましたら、予診票も含め、あらためてご案内します。</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">接種量：0.1ml</div>

2 接種後の注意

副反応として注射部位の発赤、腫れ、しこり、痛み等、全身反応として発熱などがみられることがあります。また、まれにアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんなどがみられることがあります。発熱や肘を超えて上腕全体がはれる、または重篤な症状があるときは、医師の診察を受けてください。

接種間隔

- ◆ 5種混合接種後に5種混合を接種する場合→上記表の接種間隔となるので注意を！
- ◆ 4種混合接種から5種混合に切り替えて接種する場合→上記表の接種間隔となるので注意を！
- ◆ 5種混合接種後に他の種類のワクチンを接種する場合→接種間隔に制限なし

【小児用肺炎球菌ワクチン】～不活化ワクチン

肺炎球菌とは

肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症の二大原因のひとつです。この菌は子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、敗血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎などを引き起こします。肺炎球菌による化膿性髄膜炎は、年間150人前後が発症していると推定され、約21%が予後不良（死亡、後遺症等）とされています。

1 接種回数と受け方

【標準スケジュール】★接種開始月齢が2か月以上7か月未満の場合★

対象年(月) 齢	接種回数 (計4回)
2か月以上 60か月 (5歳) 未満	<p>初回1回目 (生後12か月未満まで) 初回2回目 (生後24か月未満まで) 初回3回目 (生後24か月未満まで) 追加 (生後12か月以降)</p> <p>27日以上 27日以上 60日以上</p> <p>(標準：初回は生後12月までに接種) (標準：追加は生後12～15か月未満で接種)</p> <p>◎初回接種のうち2回目、3回目の注射は生後24か月を超えた場合は行わない(追加接種は可能)。初回接種のうち2回目は生後12か月を超えた場合、3回目の注射は行わない(追加接種は可能)。</p> <p style="text-align: right;">接種量：0.5ml</p>

【接種開始が遅れた場合のスケジュール】★接種開始年(月) 齢が7か月以降になった場合★

対象年(月) 齢	開始年(月) 齢	接種回数 (計3回のみ)
2か月以上 60か月 (5歳) 未満	7か月以上 12か月未満	<p>初回1回目 (生後24か月未満まで) 初回2回目 (生後24か月未満まで) 追加 (生後12か月以降)</p> <p>27日以上 60日以上</p> <p>(標準：初回は生後12月までに接種)</p> <p>◎初回2回目は生後24か月を超えた場合は行わない(追加接種は可能)。</p>
	開始年(月) 齢	接種回数 (計2回のみ)
	1歳以上 2歳未満	<p>初回1回目 初回2回目</p> <p>60日以上</p>
	開始年(月) 齢	接種回数 (計1回のみ)
	2歳以上 5歳未満	<p>1回のみ(終了)</p>

接種量：各0.5ml

2 接種後の注意

副反応として、接種部位の発赤、腫れ、全身反応として発熱がみられることがあります。

発熱や肘を超えて上腕全体がはれる等の症状があるときは、医師の診察を受けてください。

接種
間
隔

◆肺炎球菌接種後に肺炎球菌を接種する場合→上記表の接種間隔となるので注意を！

◆肺炎球菌接種後に他の種類のワクチンを接種する場合→接種間隔に制限なし

【B型肝炎ワクチン】～不活化ワクチン

B型肝炎とは

B型肝炎ウイルスの感染を受けると、急性肝炎となりそのまま回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合があります。一部劇症肝炎といって、激しい症状から死に至ることもあります。また症状としては明らかにならないままウイルスが肝臓の中に潜み、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝がんなどになることがあります。ことに年齢が小さいほど、急性肝炎の症状は軽いかあるいは症状はあまりはっきりしない一方、ウイルスがそのまま潜んでしまう持続感染の形をとりやすいことが知られています。感染は、肝炎ウイルス（HBs 抗原）の母親から生まれた新生児、肝炎ウイルス陽性の血液に直接接触したような場合、肝炎ウイルス陽性者との性的接触などで生じます。

1 接種回数と受け方

対象年(月)齢	接種回数 (計3回)
2か月以上 12か月未満	<p>初回1回目 ← 27日以上 → 初回2回目</p> <p>追加 (生後12か月未満まで)</p> <p>1回目から139日以上経過後 (5か月程度経過後)</p> <p>生後2か月に達した時から生後9か月に達するまでを標準的な接種期間として27日以上間隔をおいて2回注射、さらに初回1回目の接種から139日以上(5か月程度)経過した後に1回注射。</p> <p style="text-align: right;">接種量：10歳未満 0.25ml</p>

※母子感染予防としてB型肝炎ワクチンの全部または一部を接種済みのお子さんは定期接種の対象外です。

2 接種後の注意

- ① 予防接種後に接種部位が赤くなったり、腫れたりすることがありますが、その場合は接種部位を冷やしてください。発熱、発疹がみられることもあります。
- ② 重い副反応としては、ごくまれにアナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎が出現します。症状がみられたときには接種医師かかかりつけ医に相談してください。

接種間隔

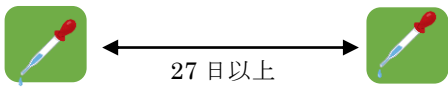
- ◆B型肝炎接種後にB型肝炎を接種する場合→上記表の接種間隔となるので注意を！
- ◆B型肝炎接種後に他の種類のワクチンを接種する場合→接種間隔に制限なし

【ロタウイルスワクチン】～経口生ワクチン

ロタウイルスとは

ロタウイルスの感染経路は人と人との間での糞便を介した経口感染で、感染力はきわめて強いです。通常2～4日程度の潜伏期間において、胃腸炎を引き起こします。嘔吐や発熱で始まり、間もなく頻回の水様下痢になります。通常は1～2週間で治癒しますが、脱水が重度になり、ショックや電解質異常となり死に至る場合もあります。他のウイルス性胃腸炎よりも重く、特に2歳未満の乳幼児が重症化しやすいです。

- 1 接種回数と受け方 → ※ワクチンにより接種回数が異なります(下記表のとおり)。
→ ※原則として全て同一種類のワクチンでの接種となります。

★ ロタリックス の場合 ★	
対象年(月)齢	接種回数(計2回)
生後6週以上 24 週未満	<p>1回目(14週6日まで) → 27日以上 → 2回目</p>  <p>1回目の接種の標準は生後2か月から生後14週6日まで 2回目は27日以上間隔をおいて接種</p> <p>ロタリックスで接種の場合 予診票が1枚余りますので 破棄してください</p> <p>接種量：1.5ml</p>

★ ロタテック の場合 ★	
対象年(月)齢	接種回数(計3回)
生後6週以上 32 週未満	<p>1回目(14週6日まで) → 27日以上 → 2回目 → 27日以上 → 3回目</p>  <p>1回目の接種の標準は生後2か月から生後14週6日まで その後、27日以上間隔をおいて2回目と3回目を接種</p> <p>接種量：2ml</p>

2 接種後の注意

- ① **接種後1～2週間は腸重積症に注意を！！**(腸の一部が隣接する腸管にはまり込む病気)
ワクチン接種後1～2週間までの間は、腸重積症のリスクが高まると報告されています。
突然激しく泣く、周期的な不機嫌、腹痛、反復性の嘔吐、血便排泄、ぐったりして顔色が悪い、腹部膨満、高熱などの症状が一つでも見られた場合、速やかに接種医師かかかりつけ医の診察を受けてください。
- ② その他の副反応としては、下痢や嘔吐、胃腸炎、発熱等があります。

授乳は、嘔吐防止のため接種前後30分程空けて下さい！

接種間隔


- ◆ロタ接種後にロタを接種する場合→上記表の接種間隔となるので注意を！
- ◆ロタ接種後に他の種類のワクチンを接種する場合→接種間隔に制限なし

【BCGワクチン】～注射生ワクチン

結核とは

結核菌の感染で起こります。日本の結核患者はかなり減少しましたが、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力（免疫）はお母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる可能性があります。乳幼児は結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

1 接種回数と受け方

対象年(月) 齢	接種回数（計1回）
1歳未満	1回  生後5か月に達した時から生後8か月に達するまでを標準的な接種期間として接種。

2 接種前の注意

副腎皮質ホルモン剤（ステロイド）を使用していると、一時的に免疫力が低下するので反応が強くなる場合があります。軟こうの場合は、接種2日目から接種部位（肩から肘にかけての部位）に塗るのは控えてください。主に左腕に接種しますが、湿疹のある場合は、右腕に接種することもあります。

3 接種後の注意

※一般的事項については、4ページを参照してください。

- ① 接種部位はじゅうぶん自然乾燥させてください。
- ② 接種を受けたところをもんだり、ひっかいたりしないでください。
- ③ 接種後10日頃に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。
この反応は、接種後4週間ころに最も強くなりますが、その後はかさぶたができて、接種後3ヶ月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは、異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力（免疫）がついた証拠です。自然に治るので、包帯をしたり、絆創膏をはったりしないで、そのまま清潔に保ってください。
- ④ わきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大変大きく腫れる（2～3cm以上）ことがあります。このようなときは接種医師かかかりつけ医に相談してください。

◆コッホ現象について◆

接種前に結核菌に感染している場合にBCGを接種すると、接種後10日以内に接種局所の発赤、腫れ及び化膿などをきたし、通常2週間～4週間後に消炎、瘢痕化し、治癒する一連の反応が起こることがあります。これを「コッホ現象」といいます。「コッホ現象」と思われる反応が見られた場合は、森町保健センターに連絡のうえ、接種した医療機関を受診してください。

接種間隔

- ◆BCG接種後に他の種類の注射生ワクチンを接種する場合→接種後27日以上間隔をあける
- ◆BCG接種後に他の種類の経口生ワクチン、不活化ワクチンを接種する場合→接種間隔に制限なし

【麻疹・風しん（MR）ワクチン】～注射生ワクチン



麻疹（はしか）とは

麻疹ウイルスの空気感染、飛沫感染、接触感染によって起こります。潜伏期間は約10日間です。感染力が強く、予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけても、また39～40℃の高熱と発疹が出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消えます。しばらく色素沈着が残ります。

風しんとは

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、リンパ節腫脹などが主症状です。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」と呼ばれることもあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病（3,000人に1人）、脳炎（6,000人に1人）などが報告されています。妊婦が妊娠初期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。

1 接種回数と受け方

対象年(月) 齢	接種回数（計2回）
【1期】 1歳以上 2歳未満	1回  1歳になったら、なるべく早い接種をお勧めします。
【2期】 5歳以上 7歳未満	1回  小学校入学前の1年間の時期に接種 ※ <u>年長になりましたら、予診票も含め、あらためてご案内します。</u>

接種量：各0.5ml

2 接種後の注意

- ① 接種直後または4～14日の間で発熱、発疹等がみられることがありますが、いずれも1～3日で消失します。また、鼻汁、せき、注射部位の発赤がみられることがありますが。
- ② 発熱、けいれんその他異常な症状があるときは、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ これまでの麻疹ワクチンおよび風しんワクチンの副反応データから、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、脳症およびけいれんなどの副反応がまれに生じる可能性があります。

接種間隔

- ◆MR接種後に他の種類の注射生ワクチンを接種する場合→接種後27日以上間隔をあける
- ◆MR接種後に他の種類の経口生ワクチンや不活化ワクチンを接種する場合→接種間隔に制限なし

【水痘ワクチン】～注射生ワクチン



水痘とは

水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスの空気感染、飛沫感染、接触感染で起こります。発疹の発現する前から発熱が認められ、典型的な症例では、発疹は紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水泡、膿疱（粘度のある液体が含まれる水泡）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するとされています。

水痘は主に小児の病気で、合併症として、熱性けいれん、肺炎、気管支炎、脳炎等があり大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠初期にかかると重症化しやすく、また、先天性水痘症候群と呼ばれる病気により、低出生体重、四肢低形成などの障がいを持った子どもが生まれる可能性があります。

1 接種回数と受け方

対象年(月)齢	接種回数（計2回）
12 か月以上 36 か月 (3 歳)未満	<p>1 回目  ← 3 か月以上 (標準：6 か月～1 年) →  2 回目</p> <p>標準的には生後 12 か月から 15 か月に達するまでに 1 回目の注射を行い、3 か月以上（標準的には 6 か月～1 年）において 2 回目の注射を行う。</p> <p>接種量：0.5ml</p>

2 接種後の注意

- ① 予防接種後に接種部位が赤くなったり、腫れたりすることがありますが、その場合は接種部位を冷やしてください。発熱、発疹がみられることもあります。
- ② 重い副反応としては、アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病等がまれに出現します。症状がみられたときには接種医師かかかりつけ医に相談してください。

接種間隔

- ◆水痘接種後に水痘を接種する場合→上記表の接種間隔となるので注意を！
- ◆水痘接種後に他の種類の注射生ワクチンを接種する場合→接種後 27 日以上間隔をあける
- ◆水痘接種後に他の種類の経口生ワクチンや不活化ワクチンを接種する場合→接種間隔に制限なし

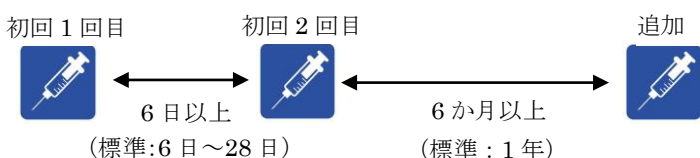

【日本脳炎ワクチン】～不活化ワクチン

日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。人から直接ではなく、ブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、おう吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。

流行は西日本地区の高齢者を中心に発症していますが、若年者の発症も見られています。かつての好発年齢であった幼児、学童は予防接種対象年齢にあたり現在はほとんど発症がみられなくなりました。感染者のうち100～1000人に1人が脳炎等を発症します。脳炎の他、髄膜炎や夏風邪の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった人の死亡率は約20～40%ですが神経に後遺症を残す人が多くいます。

1 接種回数と受け方

対象年(月)齢	接種回数 (計4回)
【1期】 6か月以上 90か月 (7歳半)未満	 <p>初回1回目 ← 6日以上 (標準:6日～28日) → 初回2回目 ← 6か月以上 (標準:1年) → 追加</p> <p>1期初回 3歳に達した時から4歳に達するまでを標準的な接種期間として、6日以上(標準的には6日～28日)間隔をおいて接種。</p> <p>1期追加 4歳に達した時から5歳に達するまでを標準的な接種期間として、2回目終了後、半年以上あけて接種。</p> <p style="text-align: right;">接種量: 3歳以上 0.5ml 3歳未満 0.25ml</p>
【2期】 9歳以上 13歳未満	<p>2期</p>  <p>9歳に達した時から10歳に達するまでを標準的な接種期間として接種。 ※<u>小学校4年生になりましたら、予診票も含め、あらためてご案内します。</u></p> <p style="text-align: right;">接種量: 0.5ml</p>

2 接種後の注意

- ① 予防接種後に接種部位が赤くなったり、腫れたりすることがありますが、その場合は接種部位を冷やしてください。発熱、発疹がみられることもあります。
- ② 重い副反応としては、アナフィラキシー様症状が出現します。症状がみられたときには接種医師かかかりつけ医に相談してください。

接種間隔

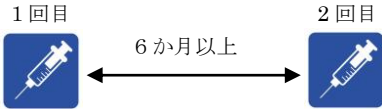
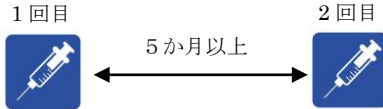


- ◆日本脳炎接種後に日本脳炎を接種する場合→上記表の接種間隔となるので注意を!
- ◆日本脳炎接種後に他の種類のワクチンを接種する場合→接種間隔に制限なし

【HPV（子宮頸がん）ワクチン】～不活化ワクチン

ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症とは

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、人にとって特殊なウイルスではなく、多くの人々が感染し、そしてその一部が子宮頸がん等を発症します。100種類以上の遺伝子型があるHPVの中で、子宮頸がんの約50～70%は、HPV16、18型感染が原因とされています。HPVに感染しても、多くの場合ウイルスは自然に検出されなくなりますが、一部が数年～十数年間かけて前がん病変の状態を経て子宮頸がんを発症します。子宮頸がんは国内では年間約10,000人が発症し、年間約3,000人が死亡すると推定されています。ワクチンでHPV感染を防ぐとともに、子宮頸がん検診によって前がん病変を早期発見し、早期に治療することで、子宮頸がんの発症や死亡の減少が期待できます。

1 接種回数と受け方

対象年齢	接種回数（12歳以上15歳未満：計2回、15歳以上：計3回）
<p>小学6年から高校1年相当の女子 （12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子）</p>	<p>★12歳以上15歳未満★</p> <p>パターン①（標準）</p>  <p>1回目 ← 6か月以上 → 2回目</p> <p>パターン②</p>  <p>1回目 ← 5か月以上 → 2回目</p> <p>※1回目の接種を15歳になるまでに受けた場合、2回接種で終了</p> <p>★15歳以上★</p> <p>パターン①（標準）</p>  <p>1回目 ← 2か月以上 → 2回目 → 3回目 ← 6か月以上 →</p> <p>パターン②</p>  <p>1回目 ← 1か月以上 → 2回目 ← 3か月以上 → 3回目</p> <p>13歳となる日の属する年度の初日から当該年度の末日までを標準的な接種期間として接種。（1年以内に接種を終えることが望ましい）</p> <p>※<u>小学校6年生になりましたら、予診票も含め、あらためてご案内します。</u></p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">接種量：9歳以上 0.5ml</div>

2 接種後の注意

- ① 予防接種後に接種部位が赤くなったり、腫れたりすることがありますが、その場合は接種部位を冷やしてください。発熱、発疹がみられることもあります。
- ② 重い副反応としては、アナフィラキシー様症状が出現します。症状がみられたときには接種医師かかかりつけ医に相談してください。

接種間隔

- ◆ HPV接種後にHPVを接種する場合→上記表の接種間隔となるので注意を！
- ◆ HPV接種後に他の種類のワクチンを接種する場合→接種間隔に制限なし

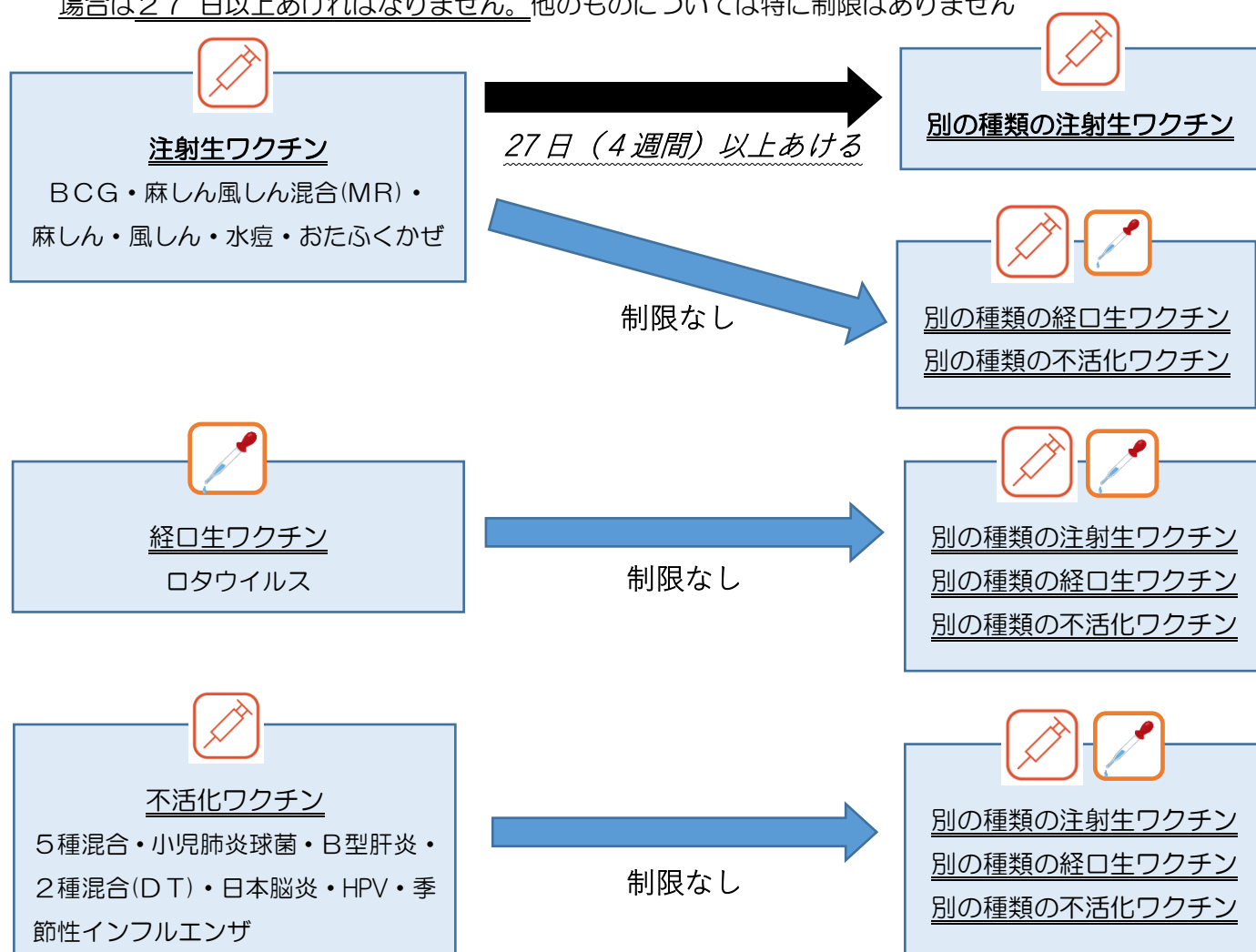
12 主な任意の予防接種

任意の予防接種は、**個人の希望**により接種する予防接種で**有料**となります。希望する場合は、医師にご相談ください。（すべての予防接種実施医療機関で対応しているとは限りません。）

種類	回数	方法	接種期間・間隔等
おたふくかぜ	2回	皮下注射	<ul style="list-style-type: none"> 1回目：生後12～24か月 2回目：小学校入学前
季節性インフルエンザ	1～2回 (毎シーズン)	皮下注射 (不活化インフルエンザHAワクチン)	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月～13歳未満は2～4週間の間隔で2回接種。 13歳以上は原則1回。
		経鼻 (経鼻弱毒性インフルエンザワクチン)	<ul style="list-style-type: none"> 2歳～19歳未満（接種不相当者除く）に1回。
新型コロナウイルス	2～3回 (毎シーズン)	筋肉内注射	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月以上。ワクチンの種類により接種回数、間隔は異なる。

13 各種予防接種の間隔

次のワクチン接種までの間隔として、注射生ワクチン接種後に別の種類の注射生ワクチンを接種する場合は27日以上あければなりません。他のものについては特に制限はありません



14 接種間隔の考え方の例

※接種日は、“0日目”と数えます。

日	月	火	水	木	金	土
	1 (接種日・0日目)	2 (1日目)	3 (2日目)	4 (3日目)	5 (4日目)	6 (5日目)
7 (6日目)	8 (7日目)	9 (8日目)	10 (9日目)	11 (10日目)	12 (11日目)	13 (12日目)
14 (13日目)	15 (14日目)	16 (15日目)	17 (16日目)	18 (17日目)	19 (18日目)	20 (19日目)
21 (20日目)	22 (20日目) ※20日以上 あけた日に該当	23 (22日目)	24 (23日目)	25 (24日目)	26 (25日目)	27 (26日目)
28 (27日目)	29 (28日目) ※27日(4週間) 以上あけた日に 該当	30 (29日目)	31 (30日目)			

※同じ曜日(以降)に接種ができます。

- 3ヶ月以上あける 例) 4月6日に接種の場合→「7月6日以降」であれば接種可能
- 6ヶ月以上あける 例) 4月6日に接種の場合→「10月6日以降」であれば接種可能
- 7ヶ月以上あける 例) 4月6日に接種の場合→「11月6日以降」であれば接種可能

15 長期療養者の定期予防接種機会の確保について

長期の療養を要する病気により定期の予防接種を接種対象年齢の間に接種できなかった場合、接種できるようになった日から2年間を経過するまでの間、定期の予防接種として無料で接種できるようになりました。(但し、ロタウイルスは対象外)

※BCGは4歳未満、小児肺炎球菌は6歳未満、ヒブは10歳未満、5種混合は15歳未満、B型肝炎は対象年齢の上限はありません。

※該当疾病や手続き方法などは森町保健センター(3-2311)にお問い合わせください。

16 予防接種実施医療機関

【森町内】

医療機関名	電話番号	住 所
森町国民健康保険病院	2-2580	森町字上台町326番地
遠藤内科医院	2-2030	森町字御幸町29番地1
鎌田医院	2-6958	森町字港町186番地
村本外科医院	2-6070	森町字御幸町116番地
向整形外科クリニック	2-6711	森町字上台町221番地
くがメディカルクリニック	2-2039	森町字森川町278番地85
新都市砂原病院	8-3131	森町字砂原1丁目30番地59
えとう森町クリニック	7-8750	森町字御幸町21番地4

【森町外】

医療機関名	電話番号	住 所
かみいそこどもクリニック	0138-74-2611	北斗市中央2丁目4-3
ほくと小児クリニック	0138-48-1711	北斗市追分2丁目66-12
望が丘医院	0138-65-8111	七飯町大川3丁目5-28
ひよこクリニック	0138-65-1311	七飯町大川8丁目12-15
はるこどもクリニック	0138-65-0500	七飯町本町6丁目7-42
えんどう桔梗こどもクリニック	0138-47-3011	函館市桔梗5丁目7-16
さいとう小児クリニック	0138-34-3355	函館市石川町163-2
市立函館病院	0138-43-2000	函館市港町1丁目10-1
共愛会病院	0138-51-2111	函館市中島町7-21
五稜郭ファミリークリニック小児科	0138-31-6660	函館市柏木町11-10
はぎさわ小児クリニック	0138-33-1122	函館市時任町23-10
函館中央病院	0138-52-1231	函館市本町33-2
石崎小児科医院	0138-59-1233	函館市湯川町1丁目17-19
函館新都市病院	0138-46-1321	函館市石川町331-1
港町こどもクリニック	0138-85-8889	函館市港町1丁目11-18
函館五稜郭病院	0138-51-2295	函館市五稜郭町38-3

※上記医療機関以外の函館市内、渡島管内医療機関で接種を希望される場合は森町保健センターにお問い合わせください。【電話 01374-3-2311】

医療機関によっては、実施していないワクチンもあります。
確認のうえ、必ず事前に予約をしてください。